

新たな歴史を刻む全国制覇! (経スポ)



快進撃! 経大史上初! 清瀬杯優勝! 準硬式野球部、偉業達成!

『第48回清瀬杯全日本大学選抜準硬式野球大会』が9月2日～9月10日に静岡県浜松市で開催された。この大会は、全国各地から16の大学が集まるトーナメント戦である。準硬式野球の全国大会は2つあり、『全日本大学選抜準硬式野球選手権大会』とこの『清瀬杯全日本大学選抜準硬式野球大会』である。上位24チームが全日本選手権大会に出場し、その次の16チームが清瀬杯に出場する。全日本選手権大会を目指していたが、あと一歩のところで、同リーグの近畿大学に負けてしまい、清瀬杯へ出場することとなった。

大阪経済大学準硬式野球部は8年ぶりの3回目の出場であったが、この大会で、過去優勝したことはなく、前回出場時と同様に敗退の結果を残していない。今大会は4年生と春季リーグ戦でベストナインを獲得した3年生4人の計9人が初優勝を目指すことになった。

9月2日は夕方から開会式が行われ、翌9月3日に1回戦を迎えた。相手は関東地区代表の神奈川大学。

この試合は、大学から、学長・学生部の方々・チアリーダー部・吹奏楽総部・準硬式野球部 同生選抜メンバーが、はるばる静岡まで応援に駆けつけてくれた。

大事な初戦の立ち上がり、先発投手の石田(経営4回)は初回を0点に抑え、その裏の攻撃一死ランナー無しから3番八城(経営4回)4番若崎(人科4回)が連続ヒットで先制のチャンスを作るが、後続が続かず無得点。2回裏、先頭の秋定(経営4回)が四球を選ぶもこの回も無得点。石田も踏ん張りながら相手打線を抑える。

試合が動いたのは5回裏。先頭打者が四球を選び8番岡崎(人科4回)が送りバントを決め一死2塁とし、9番中野(経営4回)がセンター前に値千金の先制タイムリーを放った。7回裏、代打村上



(経営4回)を送るも内野ゴロで凡退してしまう。しかし石田がこの1点を守りきり、1-0で初戦突破。石田も先封で勝利投手となった。

苦しい試合展開であったが、吹奏楽総部、チアリーダー部をはじめ多くの方々の声援のおかげで得られた勝利だった。多大な時間と労力、費用をかけて、わざわざ来てくださった皆様、勝った姿を見ていただくことができて本当に良かった。

9月4日の2回戦、相手は北信越地区代表の富山大学。この試合も先発投手は石田。1回表経大の攻撃。1番柳松(人科4回)がライオンバットのツーベースヒットを打ち、2番がバントで手堅く送り、先制のチャンスであったが後続が倒れ無得点。その裏、昨日完



封の疲れからなのか、2番3番に連続ヒットを浴びるも、なんとか無失点に抑える。

2回裏、9番にセンター前ヒットを打たれ、ショートのエラーなどで、この回もピンチを迎えるが、なんとか0点に抑える。3回表、先頭の山本(経営4回)が左中間にツーベースヒットを打つもこの回も無得点。このままお互いに投手が踏ん張り、テンポよく試合が進んでいく。7回裏、富山大学の攻撃。ここで試合が動く。先頭打者(エラー)で出塁され、送りバントを決められ一死二塁のピンチ。続く打者にタイムリーを打たれ先制されてしまう。さらに死球を与え犠牲フライで進塁され、サード

(内野安打で2点目奪われる。ここで力投を続けていた石田に委せて、木村(人科3回)リリーフ。続く打者から三振を奪いピンチを切り抜けリンスムを作るも、点を奪えないまま最終回を迎える。)

2点ヒールドの9回表、先頭の瀬原(情社4回)が死球で出塁し、続く秋原(経営3回)がバントヒットでつなぐ。しかし4番・5番が凡退し、万事休すかと思われたが、途中出場の内城が起死回生の2点タイムリーヒットを打ち、士気振りを振り出した。

その裏、2本ヒットを打たれたながらも無失点で抑え、迎えた延長10回。先頭打者は途中出場の中川(人科3回)がショートへ内野安打で出塁し9番大西(人科4回)が相手のフィールダースチョイスでつなぐ。1番柳松が左中間に走者一掃の2点タイムリースリーバーを打ち、2点。その裏の木村はヒットを打たれるものの後6-4-3のダブルプレーで試合を締めくくった。とても苦しい試合だったが、一試合ごとにチームがまとまり強くなっているを感じた。

勝って一安心といきたいところだが、大会日程が過密なため、ほんの少しの休憩を挟んだ後、準決勝、関東地区代表の立教大学戦が始まった。立教大学は言わずと知

発行:大阪経済大学
スポーツ・文化振興課



れた強豪校での試合も苦戦するだろうと思われたが、初回先発木村が抜群の立ち上がりを見せる。そのリズムで初回経大の攻撃。2番川がライト前にヒットを打ち、続く3番八城、初球の高めのストリートをとらえた打球はぐんぐんと伸びあつという間にライトスタンド中段に突き刺さる先制のツーランホームランが飛び出した。

このまま勢いに乗っていきたくところだったが、アクシデントが起きてしまう。続く4番の岩崎が顔面にテットボールを受けて自傷退場となってしまう。守備の要である捕手の岩崎が退場となり、一気にこれを払拭したのが2番手捕手の大前(経営)

4回であった。巧みな配球で木村を好リドする。3回に2点を奪われ同点とされるも4回裏牽頭の杉浦(人科4回、主将)が四球を出塁する。ここで代走俊定の柳(経済4回)が告げられる。さしほばのフッキーなヒットを定かかりに5点を奪い再びリードする。5回裏相手のエラーで先頭打者が出塁すると、きつちり送りバントを決め、津留(経済4回)が代打で登場する。津留は7球目をセンター前にはさま返し、死1、3塁のチャンスとなる。相手のバズボールで1点を追加し5-2とリードを広げる。その後、4番大前のヒットなどでチャンスを作るも相手投手も粘り無得点。最終に1点を返されるも、木村が踏ん張る。最終回は、石田がランナーを背負いピンチとなるが、ファースト八城のファインプレーでゲームセット。ダブルヘッターで二試合とも接戦という体力的にも気力的にも厳しかったが、なんとか決勝進出を決めた。

決勝の相手は同じ関西地区代表、同じリーグでもあり因縁の相手である近畿大学であった。9月5日の決勝戦昨夜からの雨で、グラウンドコンディションが悪く、延期かと思われたが、奇跡的に天候が回復した。関東の学生委員の方や球場職員の皆様のおかげで1時間40分遅れで開始された。

決勝の先発は今大会3度目となる石田。試合は早くも動く。2回表近大の攻撃、二死ランナー無しから内野安打で出塁を許すと、次の打者にライト前を打たれ二死1、3塁のピンチを迎える。ここで近大が重盗をしかけ3



魚谷(人科4回)が守備につく。3-2となりこのまま9回まで試合は進む。9回表先頭を四球で歩かし犠打でランナーを進められ、シヨウトフライで二死2塁となり続く7番バッターをセカンドゴロに打ち取り優勝かと思われたが、セカンドが

壘ランナーが生還し先制される。3回、4回と両チーム無得点だったが迎えた5回裏、経大の攻撃でランナー無しから死球などでチャンスを作るも3番八城の2点タイムリーで逆転に成功する。しかし、6回表に二死から2本の二塁打で試合は振り出しに戻ってしまう。

苦しい展開が続くが、石田も粘りなんとか無失点で切り抜ける。すると7回裏、経大の攻撃、代打藤村(経済4回)が内野フライに打ち取られ、一死ランナー無しとなるも、今大会当たって無失点に打順がまわる。4球目を振り抜くと打球はライトスタンドに突き刺さる勝ち越しのソロホームランとなった。先ほどの代打藤村に変わりレフトに



12回裏、経大の攻撃はこの日にホームランを放っている。松村(人科)が打球を打って詰まると打球はレフトの前、ポトリと落ちる。3塁ランナーが生還し、サヨナラ勝ちで優勝を決めた。近大に負けて清瀬杯に出場することになったが、その近大にリベンジを果たし優勝を決められたのは、とても喜ばしいことだった。整列後、主将の杉浦を胴上げし、全員で優勝した喜びを分かち合った。

今日大会2回目の延慶戦に突入するも点が取れない。11回表、先頭にヒットを許した。12回表、15球の熱投を続けていた石田に変えて木村がリリーフ。四球を与えるものの後続を断ち無失点に抑える。11回裏、二死から瀬良のヒット、代打山原(経営4回)の四球でチャンスを作るもあと一本が出ない。12回表、先ほどの山原に変わって佐竹(経営4回)がレフトの守備につく。この回から、一死満塁のタイブレーク制となる。相手は1番からの好打順だったが、木村がピッチャーライナーを好捕し、続く打者を三振に取り0点に抑える。こうなると流れは完全に経大に傾く。

12回裏、経大の攻撃はこの日にホームランを放っている。松村(人科)が打球を打って詰まると打球はレフトの前、ポトリと落ちる。3塁ランナーが生還し、サヨナラ勝ちで優勝を決めた。近大に負けて清瀬杯に出場することになったが、その近大にリベンジを果たし優勝を決められたのは、とても喜ばしいことだった。整列後、主将の杉浦を胴上げし、全員で優勝した喜びを分かち合った。

今日大会2回目の延慶戦に突入するも点が取れない。11回表、先頭にヒットを許した。12回表、15球の熱投を続けていた石田に変えて木村がリリーフ。四球を与えるものの後続を断ち無失点に抑える。11回裏、二死から瀬良のヒット、代打山原(経営4回)の四球でチャンスを作るもあと一本が出ない。12回表、先ほどの山原に変わって佐竹(経営4回)がレフトの守備につく。この回から、一死満塁のタイブレーク制となる。相手は1番からの好打順だったが、木村がピッチャーライナーを好捕し、続く打者を三振に取り0点に抑える。こうなると流れは完全に経大に傾く。

清瀬杯で優勝することができて、本当に嬉しく思います。今大会を通じて一戦ごとにチームがまとまり強くなるのを感じました。そのような中で野球ができた、また優勝することでもとても幸せです。最高の仲間と最後まで楽しく野球ができて本当に良かったです。学長を始め学生部の皆様、チャリダー部、吹奏楽部の皆様、準硬式野球部の1回生、父兄の方々、素晴らしい演奏と応援ありがとうございました。皆様のおかげで力をもらい優勝することができました。本当にありがとうございました。

山本 航(準硬式野球部 主務)

「全国制覇」ここまでくると様々な苦労がありました。秋には優勝できたリーグ戦も春では2位で終わる。全日かけたブロック戦では後半のところで近大に負けてしまいました。ですが最後にこの清瀬杯でチーム一丸となり、決勝戦では1度負けた近大にリベンジすることができました。結果、優勝することができました。最後にチームメイトに日本一の主将にならせてもらい嬉しく気持ちいっばい。これまでも皆さんの支えて頂いた方やチームメイトには感謝と御礼の言葉を伝えたいです。

杉浦 裕馬(準硬式野球部 主将)

選手諸君、優勝おめでとうございませう！

1戦1戦、戦つことに強くなるチームがあるように言われますが、正しくこのチームがその典型であったと思います。

杉浦キャプテンを中心に4回生一人ひとりが、自己主張をしながらもチームメイトを思いやり、この大会を思いついた一回り大きくなった事を思います。徳永学長はじめ吹奏楽、チア、学校関係の皆様のご支援、ありがとうございました。

中野 弘之(準硬式野球部 監督)

